

里地通信 2001・8

発行：里地ネットワーク事務局 〒105-0003 東京都港区西新橋1-17-4西新橋Y Kビル6階(財)水と緑の惑星保全機構内
電話：03-3500-3559 FAX：03-3500-3841 e-mail：QWS04137@nifty.ne.jp ホームページ：http://member.nifty.ne.jp/satochi/

第12回目イオングループ里山保全活動

トキの野生復帰を目指して 田んぼの復田と どじょうやメダカの 地域づくり

2001年5月19日(土)
新潟県新穂村生椿地区(佐渡)



「えっ? どこを復田するって??」

トキが戻ってくる日のために、耕作放棄された棚田を復田しようと集った老若男女は、草ぼうぼうの斜面を前に一瞬立ち止まってしまいました。ここが、四畝(約400平方メートル)に37枚の田んぼがあるという、三十数年前に耕作放棄された、生椿の棚田でした。

新穂村生椿地区は、小佐渡山脈の山間にある、水が湧き沢が流れる山あいの地です。かつては十数戸の家があり、山の斜面に開かれた棚田には、トキが餌をついばみに飛来しました。当時生椿地区に住んでいた故・高野高治さんは、トキと人間が仲良く暮らせるようにと各戸に呼びかけて有機農業を実践し、トキの餌付けを行っていました。昭和56年の一斉捕獲後は、山越えをして生椿の反対の位置にある旧佐渡トキ保護センターまで毎日往復数時間の山道を通い、餌を運んでトキの人工飼育に携わりました。

この地区には昭和36年まで3戸が居住し、その後高野

家一戸が生椿に残りましたが、平成元年、高野家も山を下りました。その後今日まで、亡き父・高治さんの遺志を継いで、息子の高野毅さんが数枚の棚田を耕作し続けています。

里地ネットワークでは、昨年10月29日に、かつてのトキの生息地を訪ねて生椿地区とその周辺の散策会及び調査を行いました(詳細は『里地通信2000年11月号』に掲載)。今回はこれに続いて、再び生椿の空に美しく羽ばたくトキを迎えるために、トキと人間とが共生できる場所 - どじょうやメダカのいる山間の田んぼ - を復活させようという試みに取り組みました。

この日は高野毅さんのほか、もと生椿集落の大籬さんと鈴木さんにご協力いただき、三十数年前から耕作していないという鈴木さんの棚田の復田に取り組みました。

開会式も早々に、小雨が降り出す中、参加者は草刈り鎌、鍬、スコップなどのかついで山道に入っていまし

もと生椿地区の方々。高野さん、大旗さん、鈴木さん。



た。数百メートル上から湧き出す沢を渡り、地元の方の「そこをあがった所だ」という声におされて明るいところまでのぼると、目の前は草藪の斜面。ここが今日復田する棚田だ、と知った参加者は「こんな所ほんとに田んぼになるの...?」といった、狐につままれたようなおももちでした。

それでも、とにかくやるのです。

はじめに、棚田の一番上で作業手順と道具の使い方の説明を受け、作業を開始します。なるべく元の棚田の形に注意してそれを生かすように、との注意を受け、2～3人で一枚の田んぼを起こしていきます。

上の方から、草刈り機や鎌でのびた草を刈り、下に落としていきます。するとうっすらと、もとの田んぼの畦の形が浮かび上がってきます。次に鍬やスコップで草の根っこを切りながら土を掘り起こし、天地を返します。

はじめは、草が多くてどこがどうなっているのやわかりません。田を起こすどころか畦を壊しかけたこともあり。若い女性は草刈り・草集めにはげみましたが、小さな少年はお父さんと一緒に鍬をふるっていました。

一番上の田んぼは、土を掘り起こすと下からじわっと水がしみ出てきました。どうやら、かつてこの棚田37枚を潤していた水源のようです。

一筆一筆の田んぼに分かれて作業をします。皆、黙々と土に向かいます。降りしきる雨の音と、自分の息づかい、鍬と土が立てる音が耳に響いています。

自分が立った畳一畳分ほどの田んぼを、それぞれが精魂込めて鍬をふるい続けること小一時間。休憩の声がかかって顔を上げると、「あっ、ほんとに棚田なんだ。」

たった小一時間で棚田の形がはっきりとあらわれました。等高線に沿って、三角形のたんぼ、ひよる長い田んぼなどが連なっていました。

人の力はすごい。自分たちの作業が確実に実を結ぶこ

とが実感できる瞬間でした。

雨は昼にかけてますますひどくなりました。結局午前中で作業は中止。

お昼には、地元の方に豚汁を用意していただきました。雨で濡れた身体を豚汁で暖め、自分たちの成果を確認し、参加者は笑顔を残して山を下りました。

もと生椿集落の方々も、多くの人たちとトキという縁で結ばれ、かつて自分たちが暮らしていた場所に多くの人の手がかかることをとても喜んでいました。

次回は7月下旬、その後は生椿の方々がもう少し整備して水を入れ、来年からはどじょうやメダカが泳ぐようにする予定です。

第12回の里地里山保全活動では、佐渡島内・外、総勢約40名の参加申し込みをいただきました。トキへの思いのあるご年輩の方、マイ・スコップ持参のやる気満々の女性、小学校の先生...。ある男性は、幼少の頃高野高治さんによく遊んでもらったということで、今回ご自分の息子さんを連れての参加でした。

また、トキが野生にいたころからトキの保護活動を長年に渡って続けておられる佐藤春雄先生、トキ保護センター、JA佐渡の生産者など、トキや佐渡の農業に関わる方々も参加していただくことができました。

減反政策のもと、機械が入らず手間がかかる棚田は、耕作を真っ先に放棄されます。しかし、棚田は急峻な山に降る雨を森と同じようにゆっくりと浄化し、下に流す役割を持っています。棚田が荒れることは、森が荒れることと同じです。

森が、木を切り出すだけの場所でないのと同じように、棚田も米を作るだけの場所ではありません。そこは、平野部の農地以上に、人と自然の接点なのです。

お米の収穫という経済だけでは語れないところに棚田の価値があります。この環境を、どのような守り、受け継ぐことができるのか。トキの野生復帰をキーワードに、佐渡での試みがはじまります。

里地ネットワークは、佐渡に現地事務所を開設しました。ここを拠点に、棚田の復田や地元学調査など、腰を据えて取り組みます。佐渡に暮らす人たち、佐渡にやって来る「ヨソモノ」の人たち、いろいろな場面で一緒に活動をしていきたいと思えます。ボランティアスタッフなどの希望を、佐渡事務所までお寄せください。

トキの野生復帰を目指して 野浦地区第2回地元学

2001年5月20日(日)

新潟県両津市野浦地区(佐渡)



昨年10月28日に最初の地元学を行った野浦地区で、第2回目の地元学を行いました。前回は水系に沿って自然と生活現場の「あるもの探し」を行いました。今回はそれをうけ、探した「あるもの」を分類しテーマ別に班分けして調査を深めました。下記のテーマを設け班分けしました。

- ・山
(自然風土、動植物など。水系に沿い、さらに7つの班に班分け)
- ・尊ぶこと
- ・食
- ・道具

今回も、地元のほぼ全戸から参加がありました。また「ヨソモノ」としては、長野県の森林ボランティアのグループ5人、仙台の学生さん、長野県飯山市で「小菅の里」の里地づくりを行っている鷲尾恒久さんが参加してくださいました。

以下、「尊ぶこと」班に参加した鷲尾さんからのレポートです。

見える範囲の小さな湾内の、野浦集落。43戸という戸数が、まとまりやすさにもつながっているような気がす

る。南側は海で、県道が走り、集落裏の北側には20haを超える基盤整備済みの棚田が山の中腹部まで伸びている。聞けば、中山間地の協定に基づく支払金額は四百万を超える額という。民宿はあるが、いわゆる観光開発には無縁、と思われた。

この日の地元学に参加したのは、子供からお年寄りまでの幅広い人たち。一戸に一人は参加しているように思われた。全員参加で、と事前に聞いてはいたが、仕方なしで言われたからという感じでもなく、それぞれの明るい笑顔にこの集落の持つ活気(力)が感じられる。それにしても、どうしてそんなに多くの参加が得られるのかという疑問が、頭の中に引っかかっていた。時を読み、気に応じて動ける人がいて、求心力のある区長がいるということが一つの要因なのかなと思う。

7~8人ずつの班分けで、私は「祈り」のグループに参加。主題の性格上、比較的高齢者のグループとなった。お寺や神社、石造物などを中心に集落内外を歩いた。地元の人たちに説明を聞きながら、事務局が記録していく。「お念仏は、ほとんど毎月といった感じで行われます」「年末から年始にかけては、総出であちこちの参拝をするんです」「賽の神の時には、ばあちゃんが何日もかかって作った、

色々な色の紙を縫い合わせた袋を女の子が持って」
「土石流があったときも、このお堂は無事だったんです」
小さなお堂の中では、二人のおばあさんが時を過ごしていた。外のすぐ脇では、鎌を振るうおばあさん。昔からの、良い形での信仰心(宗教感)がまだまだあって、これが自然や人とのやさしいつながり、お年寄りへの敬いに結びついているのかなという思いが残った。
オドリコソウの咲く野辺の道に、まだまだ帰化植物に犯されていないふるさつを見た。小さいながらも小学校があり、集落のはずれには伝統芸能を伝える施設が建てられている。
「イカを専門にやる人もいますが、私はトビウオです。獲ったものをあぶり、毎日使ってますが、500匹もあれば十分です」
舟は、全戸が持っているという。海と会話し、野山と語らい、子供に話し、お年寄りと対話する住民たち。切

れることなくつながった人と人、人と自然のネットワークが見えてきた。これこそ地域資源であり、宝物と思われた。かつて、お年寄りが地域のあらゆる物や事を子供に語り、伝えることで、その存在感を示した。テレビが語る、東京発の情報だけではどうにもならないことを強く感じた。
この日の夕方飯山に戻り、妻と二人「雨あがる」の上映会に参加した。現在ロケの行われている「阿弥陀堂だより」が野浦の集落事情とダブリ、妙に気持ちの高ぶっている自分があった。

平成13年6月5日
長野県飯山市役所勤務
小菅むらづくり委員会
鷲尾 恒久



食調査班。家の中には様々な保存食があります。豆が何種類も出てきました。



道具班。田んぼでどじょうなどをすくう道具です。今もきれいに手入れされていました。

トキの野生復帰をめざして ー共生と循環の地域社会づくりー

夏のボランティア大募集!

佐渡島では、将来のトキの野生復帰をめざして、トキと共生する地域社会づくりが始められています。棚田でのドジョウ池作り、地元の子どもたちによる「水辺の生き物調査」、集落をみんなで歩く「地域の宝もの探し」・・・ぜひ、お手伝い下さい。玉アミ、バケツ、スコップなどをもって、みんなでいい佐渡をつくっていきましょう。

7月20日(金) ■新穂村 生椿地区 : 草刈り、ドジョウ池づくり (主催:農と食の環境フォーラム)

かつて生椿の田んぼにはトキが餌を取りに飛来し、生椿の人々は「トキも腹をすかしているんだから、腹いっぱい食わせてやれ」と、友達としてトキを受け入れていました。山間の生椿の棚田は、放棄田が多くなっていますがこの棚田の復田作業を2001年5月より開始しました。前回、掘り起こして田んぼの形をよみがえらせました。今回は、草取りの継続と、水入れを行います。水を入れたら、ドジョウも放してみましよう。鋤・鍬を使う体力作業が主です。お手伝い下さい。

7月21日(土) ■両津市 前浜地区 野浦集落 : 海の中の地元学 (主催:里地ネットワーク)

7月29日(日) ■両津市 前浜地区 月布施集落 : 地元学 (主催:農と食の環境フォーラム)

トキが野生復帰できる地域社会とは、循環・共生型の地域社会。トキだけでなく、人間だけでなく、トキも人も元気になりたい。そのためには集落の人たち自身が、地域の自然風土やその中で生きるために暮らしを築いてきた生活文化を見つめなおして、その良さを活かしながら地域をつくっていくのが有効です。そのための手法、地元学。地元の方々が主体となって地域の調査をしますが、そこには風を吹きこみ、地元にはないまなざしをもたらしてくれるヨソモノが不可欠です。地元の方も「風」を待っています。

7/21は、地元学3回目を迎える前浜地区野浦集落で「海の地元学」、7/29は、前浜地区月布施集落で第1回目の「あるもの探し」を行います。ヨソモノは定員がありますのでお申し込みはお早めに。

8月11日(土) ■両津市 吾湯地区 : 森林保全活動とビオトープづくり(主催:農と食の環境フォーラム)

佐渡には、手入れされなくなって久しい農家の裏山＝里山がたくさんあります。しかし実態は断片状態で斜面崩壊も見られ、動物のエサも少ない状況で、沢にもほとんど魚影はありません。ナラ枯れも始まり、最近ではタケや杉も元気がありません。そんな里山を整備する活動が地元 NGOの手で始まっています。いろんな生き物の住む、明るく元気な里山をよみがえらせるために、お手伝い下さい。山仕事できる方大歓迎です。

同時に、谷津に開かれ、現在は休耕田となっている田んぼを、ビオトープにします。ビオトープは、BIO(生物)top(場所)に語源をもち、生態系をなす多様な生物が生息する環境の最小単位のことです。ビオトープと特別に創ったもののようですが、実は昔の田んぼは、まさにビオトープだったのです。お百姓が水田を作り畦をぬり、水をはって稲を植える。その浅く暖かい水に沢山のプランクトンがすみ、ドジョウやおたまじやくしやタニシやメダカ、タガメ、ゲンゴロウが泳ぐ……。休耕田に水をはり、石や木をおいて深みや生き物の隠れ場所等を作ると、植物や虫たちが戻ってきます。人間がちょっと手を加えると、生き物たちにとっての快適空間ができるのです。ちょっとだけ(?)手をかしてください。

<p>9月15日(日) ■新穂村 湯上地区：湧水をいかしたビオトープづくり (主催：農と食の環境フォーラム)</p> <p>佐渡には、低い丘陵のような里山が、農地と入り組んだようにあちこちに見られます。この小さな里山が、水を蓄えてくれます。その水が里山の麓で湧き出て水路を作っています。</p> <p>新穂村農業振興公社付近にもそのような水路があります。そこには、「めだかの学校」が健在です。この水で小さな池を作りビオトープにします。池に石や木をおいて深みや、生き物の隠れ場所になる場所を作ると生き物が戻ってきます。人間が最初に環境を整えると、自然は勝手に回復していき、生き物も住むようになります。木や石はこびもあるかもしれません。お手伝い下さい。</p>
<p>9月16日(日) ■ 【場所未定】 : 水辺の生き物調査</p> <p>(主催：新潟県トキ保護基金推進委員会・里地ネットワーク)</p> <p>佐渡の小学校に呼びかけて、子供達と一緒に、身近な田んぼや水路の生き物調査を行います。トキの食べ物になるような生き物の分布状況を把握することと、それ以上に、子供達に「トキの島づくり」に参加してもらうことを目的としています。この調査のアシスト及び、子供達が少ない場合は調査そのものもお願いします。玉アミと長靴をお持ちの方は、ご持参下さい。</p>

この募集は、JA 佐渡、小中学校、地元 NGO の方々の協力を頂き、新潟県トキ保護基金推進委員会・農と食の環境フォーラム・里地ネットワークがそれぞれ行っています。お申し込みは添付の用紙で FAX にてお願い致します。

※ 集合場所・時刻・参加費等の詳細は、申し込み受けつけ後、ご連絡致します。

なお参加費は、100 円(保険代)～1,000 円(保険代、弁当代、現地交通費)程度です。

お問い合わせ ボランティア募集総合窓口 担当 中島明夫
 〒952-3453 新潟県両津市月布施北 588 TEL:0259-24-5860 FAX:0259-24-5861

佐渡 共生と循環の地域社会づくり 活動ボランティア参加申し込み → FAX : 0259-24-5861
 郵送：〒952-3453 新潟県両津市月布施北 588 旧月布施郵便局(ヨソモンセンター) ボランティア総合窓口中島明夫

参加希望日・希望人数

参加人数		日時	場所	内容	主催
大人	子供				
		7月20日(金)	新穂村 生穂地区	草刈とドジョウ池作り	農と食の環境フォーラム
		7月21日(土)	両津市 野浦集落	海の中の地元学	里地ネットワーク
		7月29日(日)	両津市 月布施集落	地元学	農と食の環境フォーラム
		8月11日(土)	両津市 吾湯地区	森林保全活動と田んぼビオトープづくり	農と食の環境フォーラム
		9月15日(日)	新穂村 湯上地区	湧水を活かしたビオトープづくり	農と食の環境フォーラム
		9月16日(日)	未定	水辺の生き物調査	新潟県トキ保護基金推進委員会・里地ネットワーク

氏名 _____ 性別 _____ 年齢 _____

住所 _____

TEL _____ FAX _____ E-mail _____

今後：ボランティア情報を 希望する _____ ご意見 _____

第13回イオン・里地・里山保全活動

森の学校

森の生態を見つめ 生活文化を体験し
木と森と人との関係を学ぼう



日時：8月25日(土)～26日(日)

場所：秋田県山本郡ニツ井町

主催：イオングループ環境財団、ニツ井町、里地ネットワーク

お申し込み：ニツ井町役場産業振興課

電話：0185-73-4515 FAX：0185-73-5224



主旨

秋田県二ツ井町は、町内の面積の78%を林野が占め、古くから林材産が盛んな地域です。日本三大美林の一つである樹齢100年以上の天然秋田杉の群生林、秋田杉の人工林、藩政時代から伐採が禁じられてきた原生林の七座山などの森林に恵まれています。日本の国土の2/3は森林、うち約40%は人工針葉樹林です。人工針葉樹林は、かつては経済林として維持管理されていましたが、現在では経済的に成り立たず、林業を仕事とする人は減り、過疎化が進んでいます。手入れされなくなった人工林は、暗く密植状態のまま木が弱々しくのび、治水治山などの森の機能を低下させてしまいます。しかし森を有する地域には、森を利用しその恵みを頂きながら、つつましく、また豊かに生きてきた人々の営みがあります。この「森の学校」では、森で暮らす様々な仲間達、森の機能、森と人との関わり、森と林業、日本の環境に適した住まいと国産材、これからの森の活かしかなどを、楽しみながら体験的に学びます。

プログラム

<p>8月25日(土) 9:30 開校式 10:40 仁館水沢杉植物群落保護林 日本一の杉見学 日本三大美林の一つである秋田杉の群生林を管理署の方の案内で観察。高さ58m、樹齢250年の日本一の杉を見学します。 13:20 七座山すそ野・交流の森 森林作業体験 枝打ち、除間伐作業、ベンチづくり 交流の森づくり構想検討 「交流の森」はみんなで割りあげる森・学校林です。植林～育林～間伐材等の活用等々楽しみながら割り上げる憩いの森にするためのワークショップ。 16:30 きみまち坂キャンプ場 きみまち坂の山頂からは、「白神の山々」「日本海に沈む夕陽」が眺められます。 郷土料理講習 郷土料理を、教わりながら皆で作ります。 夕食交流会&ファイヤートーク 皆で作った郷土料理を味わい、キャンプファイヤーを囲んで語り合しましょう。 21:30 就寝(テント泊)</p>	<p>8月26日(日) 6:30 起床 早朝には雲海が見られるかも。(霧の多い当町ならではのこと。標高わずか200数+mにもかかわらず米代川から発生した霧でキャンプ場より下はすっぱり隠れ、まるで標高千m以上の高～い山の上にいるような光景を眺めることができます。 7:30 朝食 9:15 天神荘・七座山 「自分の木」探し・米代川川下り他企画 七座山を歩いて自分が一番惹かれる木を探し、その木を入れた風景画を描きます。地図に木のあるポイントをマークし、描いた絵の縮小コピーを横に貼り付けます。「自分の木」を見にまた来てください。 定員：30名 参加費：大人6000円、子供3500円(保険代) 持ち物：雨具、保険証コピー、あれば銃・鎌・鋸など ※お昼はお弁当・御汁等を現地で準備します。 ※宿泊はどうぞも・・・という方にはヘルスセンターもご利用頂けます。参加費プラス6000円です。 ※集合場所や内容の詳細は、お申し込みの方にお返しご連絡致します。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

イオン・里地里山保全活動

財団法人イオングループ環境財団は、国内外における植樹・植林をはじめ、環境問題に関する国際会議の開催や研修会の開催など、環境保全を目的とした事業を行っています。国内では、「里山の暮らし・共に生きる文化を発見しに行こう」をテーマに、1999年より全国各地で「里山保全プロジェクト」を実施しています。里山に根づく文化から、人と自然の共生のあり方をその地域で生活する方々と共に学び、実践することで生態系の保全活動や次代を担う子供たちの環境保全に対する認識が深まることを願っています。

秋田県二ツ井町森の学校・第13回イオン 里地・里山保全活動 参加申し込み → FAX:0185-73-5224

氏名 _____ 性別 _____ 年齢 _____ 大人 _____ 人 子ども _____ 人
 住所 _____
 TEL _____ FAX _____ E-mail _____
 宿泊: ヘルスセンター宿泊を希望

第14回イオン・里地・里山保全活動

ケビン・ショートの里山自然観察会

Naturalist

KEVIN SHORT



ほくと一緒に里山を
観察しよう!

そして、グリーンミュージアム(里山体験公園)を創ろう。
炭焼窯づくり、杉を切ってイスづくり、稲刈り、餅つきなど。

集合は、近鉄三岐鉄道 西藤原駅 9時40分

9月8日(土)と 9月9日(日)

- ◆ 参加費:大人 300円、子供 無料
- ◆ 持ち物:お弁当、水筒、あれば虫とりあみ、虫かご、虫めがねなど。

主催:(財)イオングループ環境財団・里地ネットワーク・桑名員弁生活創造園ビジョン推進会議
共催:藤原岳自然科学館、桑名地域農業改良普及センター、森林づくり三重 後援:三重県藤原町

9月8日(土)・9日(日)

集合 9:40 西藤原駅

マイクロバスで移動(※地元の方は、10時までに直接立田小学校へおいでください)

開校式 10:10 立田小学校体育館

- ◆主催者よりご挨拶：(財)イオングループ環境財団・里地ネットワーク
- ◆ケビン・ショートさんのおはなし「里山自然は、超巨大なジグソーパズルだ！」

古田地区 丸ごと里山体験 11:00~15:00

いくつかのメニューがありますのでグループに分かれて行きます。ケビンさんの観察会は午前中の予定ですが、午後からは、ケビンさんもどこかのグループに入って一緒に作業します。

**ケビン・ショートさんと一緒に
里山自然探検にでかけよう！！**

ケビンさんと一緒だと、里山の仕組みが見えてくる！君も今日からナチュラリスト！？

田んぼに入って稲刈りしよう！！

いなご採りと稲刈り、稲わら編工作り、刈った稲からお米をとってお餅にします。

杉の木で木のイスを作ろう！！

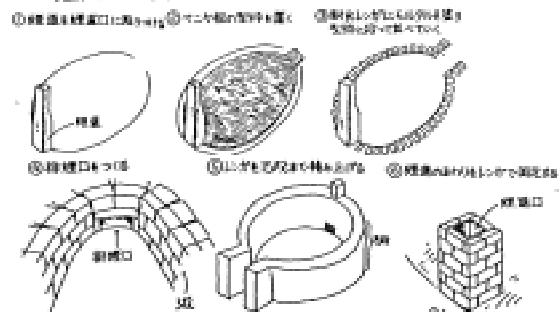
山の手入れをすると、たくさんの材木が出できます。この木でイスや小屋を作ろう。

どろをねって、炭焼釜をつくろう！！

林の中で、耐火煉瓦を使った本格的な炭窯をつくります。完成は2日目。これであなたも炭焼師への一歩を踏み出せます。



(壁面コンクリート積も工程)



『炭やき教本 簡単な釜から本格窯まで』農方一村一品研究所編 創成社

終りの会 15:00~15:10

マイクロバスで送迎

解散 15:40 西藤原駅

第14回イオン里地・里山保全活動 ケビン・ショートの里山自然観察会参加申し込み

参加希望日： 9月8日(土) 9月9日(日)

氏名： _____ 性別 _____ 年齢 _____ 大人 _____人 子ども _____人

住所： _____

TEL： _____ FAX： _____ E-mail： _____

お申し込み：○三重県綿原町役場 企画グループ Tel：0594-46-3311 Fax：0594-46-3310

又は ○里地ネットワーク 東京事務所 Tel：03-3500-3559 Fax：03-3500-3841

里地ネットワーク推薦書籍のご案内

里地・水田、農業関連

『農から環境を考える 21世紀の地球のために』

集英社新書 196p 660円(税別)

【著】原剛

【出版】集英社(2001-05-22)

20世紀の初頭、世界人口は約16億人だった。21世紀はじめの現在、世界人口は61億人に達している。百年間で4倍近く、45億人も増えたのだ。さらに21世紀半ばには約93億人に達すると推計されている。この人口を支えているのが農業であるのは言を待つまでもない。ところが、二酸化炭素の増加による地球温暖化や、オゾンホール増大による有害紫外線の増加によって、農業の未来も決して安泰ではない。しかも、化学肥料の多投によって土壌は疲弊し、農薬が地下水を汚染するなど、農業そのものが環境へ悪影響を与えていることすらある。地球環境を保全しながら、「持続可能な農業」をどうしたら実現できるのか、その可能性をさぐる。

序章 地球の温暖化、そして60億人の時代へ

第1章 環境と農業

第2章 農業は環境の守り手か、破壊者か

第3章 地球温暖化への備えを森林で

第4章 生物圏の危機

第5章 日本農業 その現実と課題

『カブトエビの寒い夏』

164p 1,333円(税別)

【文】谷本雄治【絵】岡本順

【出版】農山漁村文化協会(2001-01-10)

耕平はクラスの生き物博士。父はなるべく農薬を使わない農業をめざしている農家だ。ある日、父の田んぼでUF0のような不思議な生き物を見つけた。それはなんと、三億年前から変わらぬ姿で生きている、古代生物「カブトエビ」だった。一方、その年は祖父も記憶にない寒い

夏で、米がまったくとれなかった。町ではパニックや米どろぼうなどの事件が起こり...

『田んぼの学校 入学編』

いのちが集まる・いのちが育む』

192p 1,714円(税別)

【著】宇根豊。貝原浩

【出版】農山漁村文化協会(2000-03)

稲だけでなく多くの生き物の命を育む田んぼ、里山、小川、ため池など、田んぼの環境に触れて感じて育てて考え合う「田んぼの学校」テキスト。体験学習や総合的学習に携わる小中学校の先生や百姓先生に必携の指南書。

『田んぼの学校 あそび編』

212p 1,714円(税別)

【企画】農村環境整備センター【文】湊秋作【絵】トミタイチロー

【出版】農山漁村文化協会(2001-03-31)

“田んぼ”は子どもの五感を揺さぶるあそびの場。春夏秋冬の農業体験と遊び154メニューを紹介。休耕田の一部を生き物がにぎわう池“田んぼ水族館”として利用する提案も。

四月 春 「田んぼの学校」はじまりはじまり

五月 晩春 田植え。メダカ釣りに挑戦だ

六月 初夏 「田んぼ水族館」でカエル戦争

七月、八月 夏 いねの若い葉はとともジューシー

九月 初秋 さあイネ刈り。野草の生け花も楽し

十月、十一月 秋 収穫の喜び。ニオイで田んぼ探検

十二月～三月 冬 農家の倉は不思議空間。ぐんぐん田んぼ野遊び

「田んぼの学校」の先生へのメッセージ

『棚田はエライ 棚田おもしろ体験ブック』

118p 1,619円(税別)

【出版】農山漁村文化協会(1999-07-15)

【企画】ふるさときゃらばん・【監修】新潟県安塚町・【編著】石井 里津子

[A4 判] NDC分類:K616 販売価:¥1,619(税別)本書は、山にある田んぼ(棚田)の本だ。

本書をみれば、山の田んぼがすごくエライってことがわかると思う。

田んぼのまわりの生きものをさぐったり、イネを育てたり、農家をたずねたり、棚田を探検してみよう。

第1章 棚田での米づくり

第2章 棚田の生きもの

第3章 棚田はエライ 棚田の役割

第4章 棚田のあるくらし

第5章 棚田でもっとあそぼう 棚田のいま・未来

日本の景観を創り豊かな生命を育ててきた棚田は自然と共生する知恵・工夫の結晶。棚田での稲づくりを実際に体験しながらその仕組みと働きまでがわかるワークブック。地域の宝を再発見しよう。小学生から大人まで。

『そだててあそぼう 6 イネの絵本』

36p 1,800円(税別)

【編集・出版】農山漁村文化協会(1998-04-20)

こんなにたくさん、イネのなかま

世界のほぼ半数の人たちが、おコメを主食にしている
どうして水田で育てるんだろう?

うっかりすると見のがしちゃう、イネの花は短命だ
ちいさな田んぼ、ワク水田にちょうせんだ!

栽培ごよみ

いよいよ田植えだ!

スズメをあまみると、ぜんめつだ!

気温19度は、イネの赤信号

水田が金色に波うってきたら、収穫だ!〔ほか〕

世界の米と日本の米、水田の価値、茎のふえ方や花の観察、木梓水田・バケツイネに挑戦、昔のやり方で脱穀・精米、おいしい米の炊き方から甘酒、五平餅、玄米茶のつくり、早く花を咲かす実験まで、広がるいねの世界。

『減農薬のための田の虫図鑑』

害虫・益虫・ただの虫』

86p 1,943円(税別)

【著】宇根豊・日鷹一雅・赤松富仁

【出版】農山漁村文化協会(1989-08-31)

害虫・益虫・ただの虫、90種余りを300枚以上のカラー写真で紹介。虫たちの標本写真でなく、生きている田んぼの中での生活図鑑。虫見板に落ちた虫のすべてがわかる。有機の米作りの座右の書にもなる、やや専門的な本。

田んぼの県健康状態を虫でチェックできるようになる。

第1章 田んぼの虫たちの世界 この図鑑の使い方

第2章 害虫

第3章 益虫(天敵)

第4章 ただの虫

第5章 田んぼの虫たちとつきあう

害虫だけでなく、益虫(天敵)・ただの虫たちの田の中での生活をカラー写真で紹介、これらの虫たちの世界を知らずして減農薬稲作は不可能。小中学生の栽培学習にも必携。

『水辺の生き物と遊ぶ図鑑』

86p 1,943円(税別)

【著】おくやまひさし

【出版】地球丸(2000-03)

川の源流・上流・中流・下流・用水路・田・池・沼・湖沼と、水辺の種類別に見られる生き物を明細な写真で紹介。オタマジャクシやザリガニ、タガメなど、よく見られる生き物については、その生態も写真つきで詳しく解説されている。また、「生き物図鑑」ではなく「生き物と遊ぶ 図鑑」というだけあって、捕まえるときの罠の作り方、仕掛け方、食べ方まで(!) これも写真付きで解説。生き物観察のやり方まで取得できる。

小川に水温(ぬる)む季節がやってきた

ウメの咲くころ目覚めるアカガエル

幼年期はとて小さいヒキガエル

小川の王者、アメリカザリガニ

水辺で出会う両生類、は虫類

美しい風景と魚と。谷の釣り

木の上で生活するカエル(モリアオガエル)

水中のギャング、タガメ

いろいろな水生昆虫

水中の待ち伏せ型ハンター(タイコウチ)〔ほか〕

イベント・セミナーご案内

Satoyama21

里山から考える21世紀in世田谷

里山(人と自然が共生する環境)について観たり、感じたり、考えたり、遊んだり、話し合ったりする場が世田谷にやってくる!!

内容:

・記録映像「今森光彦の里山物語」上映
(四季折々の里山の生きもの、風景、人々の営みを見事にとらえた映像作品)

- ・里山を巡るトークショー
- ・親子・子供向け体験型プログラム
- ・里山情報コーナー(パネル展示ほか)

期間:7月20日(金)~8月5日(日)*月曜休館

場所:世田谷文化生活情報センター生活工房4階ワークショップルーム

東急田園都市線・三軒茶屋駅隣接キャロットタワー内

入場料:大人500円、60歳以上・中高生300円、
小学生200円

問合せ:事務局(ワークショップ・ミュー内)

TEL:03-3475-7730

創地農業21

主に農業関係者を対象にほぼ毎年スクールを開催。今回は、『パーマカルチャーとエコビレッジ』がテーマ。

日時:8月3日(金)13時~4日16時

場所:3日 石狩郡新篠津村たつぷの湯

4日 石狩郡当別町内牧場

内容:パーマカルチャー(持続可能な土地管理システム・デザインの倫理と原則)

講師:エリック川辺農学博士、エヴァン・ドーンソン・レイモンド氏、モーラグ・マックイ・ギャンブル氏

申し込み締め切り:7月17日(火)

(予定人数に達した場合はお断りする場合がございます)

予定人数:30名

参加費:2万円(宿泊・食事代は別途となります)

問合せ:創地農業21・Farms-Net 石松亜記

TEL:01332-2-3060 FAX:01332-2-3013(ガラガーエイジ株式会社内)

<http://www.farms-net.com/events.htm>

E-mail: ishimatu@gallagherage.co.jp

第7回全国農村交流ネット21

「まほろばの里で学ぼう・ふれあおう」

日時:9月6日(木)~8日(土)

場所:山形県高畠町米沢郷牧場

参加費:25000円

申し込み締め切り8月5日

- ・研修会第1部:米沢郷牧場の歩みとBMW技術(講演と視察)
- ・研修会第2部:21世紀の『農業』の姿を探る(パネルディスカッション)
- ・活動紹介、交流会

問合せ:独立行政法人 農業工学研究所 長谷山俊郎

TEL:0298-38-7548 FAX:0298-38-7609

生ごみリサイクル交流会2001

生ごみリサイクル運動は、“生ごみは宝”として資源化し、大地に還していくこと。食品リサイクル法が施行された今、持続可能な資源循環型社会を目指し、情報を交換し、学び、交流しあい、運動を前進させましょう。

日時:8月27日(月)

場所:早稲田大学国際会議場

事例発表:

- ・生ごみ“発酵”堆肥は使える!八ヶ岳山麓川上村における農家、大学、堆肥センター、NPO共同の実証実験
- ・岐阜市14万全世帯 5年計画で生ごみ堆肥化

・学校給食の生ごみ資料で育つ“エコ・ピッグ”と“子どもの眼”

・レストランフロア・食品売場の45店舗 生ごみ堆肥化分化合会:

- ・堆肥化成功の秘訣
- ・市民・自治体共同で生ごみリサイクル
- ・健康な家畜を育てる発酵飼料
- ・店舗・飲料店の食品リサイクル最前線
- ・早稲田の杜の商店街で進む生ごみリサイクル

問合せ:第9回生ごみリサイクル交流会2001実行委員会(有機農産物普及・堆肥化協会内)

TEL:03-5410-3735 FAX:03-5410-5267

樹木・環境ネットワーク協会<聚>

散策道づくり

日時:8月4日(土)9時 JR青梅線「昭島」駅集合
場所:海道緑地保全地域(武蔵村山市伊奈平4丁目付近)

南東側

内容:15mほどの散策道づくり(杭づくりから始めます)

ハヶ岳ワーキング

4年目迎えるハヶ岳ワーキング。土砂が堆積していく茶水の池を今後どういうふうにごくまで保全していくか、実際に自然と接し、相談しながら登山道の整備等みなさんと進めていきたいと思います。

第4回 8月24日(金)~26日(日) 植生・水質調査、ダケカンパの間伐、ささ刈り

第5回 9月14日(金)~16日(日) 植生・水質調査、登山道の整備 力仕事盛りだくさん!

第6回 10月12日(金)~14日(日) 植生・水質調査、登山道の整備 きれいな紅葉が見れるかも...

第7回 11月16日(金)~18日(日) 植生・水質調査
参加費:一般15000円(非会員は保険代別途500円)、学生10000円(宿泊費込、交通費別)

グリーンセイバーハヶ岳スクーリング

グリーンセイバーのスクーリング。北ハヶ岳の自然の中で植物の調べ方、自然界の仕組みを学ぶ。

日時:8月24日(金)~26日(日)11:40集合 14:00解散

集合場所:麦草ヒュッテ 長野県茅野市北山麦草峠

参加費:協会会員・学生 30000円 一般35000円

申し込み締め切り:8月6日(月)

問合せ:樹木・環境ネットワーク協会

TEL:03-5366-0755 Fax:03-5366-0688

<http://shu.m78.com/>

よこはま里山研究所

カブトムシの連続観察会1

荒井沢で、2回目は卵さがし、真冬の3回目には、丸々太った幼虫を持ちかえって育ててみよう!

日時(1回目):8月4日(土)18:00~20:00

参加費:親子参加で1組5000円(3回分)

問合せ:特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

TEL:045-722-9674 FAX:045-722-9675

フォレスト工房もくり

自然「感」察ハイキング 花の湯の丸高原観察会

日時:8月8日(水)9:00-15:00

場所:湯の丸山(長野県東部町)

内容:花あふれる湯の丸高原をゆっくり楽しむ

参加費:2500円

自然「感」察ハイキング 夜の林で虫集め

日時:8月14日(火)19:00-21:00

場所:感葉の森(長野県上田市)

内容:夜のクヌギにはカブトムシが一杯。罌も仕掛ける。

参加費:1000円

木や葉っぱで昆虫を作ろう

日時:8月17日(金)13:30-15:30

場所:ふれあいさなだ館(長野県真田町)

内容:小枝や葉っぱなど山に落ちている材料からトンボ

・カブトムシなど好みの昆虫を作ります。

参加費:一人600円、一家族1000円

リラクゼーションお風呂グッズ

日時:9月29日(土)13:30-15:30

場所：ふれあいさなだ館(長野県真田町)
内容：夏、遊びすぎた体を休ませよう。檜で風呂のイス、書きまわし棒を作る。
参加費：2500円

「沢からたどる静かな山旅」東俣源流の沢歩き
日時：8月4日(土)9:30-17:00
場所：長野県下諏訪町
内容：御柱の深い森に流れる豊かな水に浸る(下諏訪ダム計画地上流)
参加費：5000円

「沢からたどる静かな山旅」東俣源流の沢歩き
日時：8月5日(日)9:30-17:00
場所：長野県下諏訪町
内容：天然林の源流を遡って葉なの霞ヶ峰へ(下諏訪ダム計画地源流)
参加費：5000円

「沢からたどる静かな山旅」八ヶ岳で沢歩き
日時：9月1日(土)10:10-15:00
場所：八ヶ岳山麓
内容：八ヶ岳山麓で足慣らし入門コース
参加費：3000円

「沢からたどる静かな山旅」八ヶ岳で沢歩き

日時：9月2日(日)9:10-17:00
場所：渋川(北八ツ)
内容：源流から天狗岳へ(蓼科ダム取水経各地源流)

参加費：7000円
「沢からたどる静かな山旅」泊まりで草原へ
日時：10月6日(土)10:00-7日(日)15:00
場所：吾妻川上流(長野県六合村)
内容：沢に泊まって上信国境に抜けます。きのこもあるかも。(八ツ場ダム計画地上流)
参加費：15000円

森林(もり)の管理人育成講座
1日だけの単発参加もOK
場所：長野県真田町
参加費：各回3500円
・8月18日(土)9:00-16:00 森林調査及び各種の間伐法など
・8月19日(土)9:00-15:30 下刈り
・9月8日(土)9:00-16:00 森林内で行う様々な活動
・9月9日(土)9:00-15:30 森林小の階層構造&高枝打ち
問合せ:フォレスト工房もくり
TEL:0268-72-9733 FAX:0268-72-9732
<http://mokuri.cool.ne.jp>